

企業名： 株式会社ヨコオ

レポート名： 統合レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

レポート内から会社が目指す姿はおおいに理解できた。激変する環境下でも品質向上を続け常に進化する“進化永続企業”を目指すであった。コロナ禍やウクライナ情勢などの今後の見通しが不透明な状況でも絶えず研究開発を続けて常に時代の先駆者でありたいということである。ヨコオは微細精密加工技術を深化させながら現在では、車載通信機器、回路検査用コネクタ、無線通信機器の3セグメントで事業を展開している。いずれのセグメントも海外販売比率が高く、国内外問わず進出しコロナ禍の影響を大きく受けつつも安定した経営をしていることが分かった。一方で先進性や付加価値向上のための取り組みは惜しまずさらなる事業拡大と重層化を目指しているという点は高く評価されるべきだろう。

また、社長の考える“いい会社をつくる”という考え方はヨコオのすべての社員に対して共通認識として据えられているのも重要である。具体的には

- ・お客さまからは「ヨコオと取引していて良かった。もっと拡大しよう」と言っていただけのような会社
- ・お取引先さまからは「ヨコオの仕事をしていて良かった。もっと貢献できるよう頑張ろう」と言っていただけのような会社、
- ・地域社会からは「ヨコオがこの町にいて良かった。是非うちの子供をヨコオに入社させたい」と言っていただけのような会社
- ・ヨコオグループの従業員に「この会社に勤めていて良かった。もっと頑張っでさらにいい会社にしよう」と思ってもらえるような会社（ヨコオ社長の徳間孝之氏による）

先述した、絶えず進化を続けていくという考えと同時に根底には常にヨコオの理念を持ち続けて社内の士気をあげるといふ二面性は素晴らしいと感じた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

全体を通してヨコオが常に品質改良に努め多分野に対してビジョンを確立しているという印象を受けた。進化経営をしながら重層化経営、すなわち安定的な経営をしていくという経営方針はヨコオの強みとなっているだろう。ただ関連企業等との比較やそれらに対して特に秀でた点を確認するのは難しく感じた。微細精密加工を得意とする企業は多くあると思うがその中からヨコオを相対的に選びたくなる点(例えばコスト面や品質面)、ヨコオがなくなってしまうと絶対的に困る(ヨコオだからこそ作れるモノ)というポイントはもう少し

盛り込んでもいいのではないかと考える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

2の前半で述べた重層化経営はまさに持続性を保つためのものであり、進化経営を目指すという優位性を支えていると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

まず先述した”いい会社をつくる”という共通認識によってヨコオという会社における一体感の下、常に変わらない信念を持って成長していくことができそうだと感じた。また現状に満足せず常に向上心を持って品質向上に努めるという考えは自身の働く姿勢のみならず様々な人との関わり方にも良い影響をもたらすと考えた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体を通してヨコオの理念と現在取り組んでいること、そして将来性がよく分かったため大変よくまとまった報告書だと感じた。強いて改善点を述べるならほとんどポジティブな内容で埋められているという印象を受けたことである。もちろん問題点を羅列した方が良いということではなく現在抱えている問題に対してどのように対応していくのかという課題解決の能力とポテンシャルを見られるとより良いのではないかと感じた。